

I. 第1章 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業の概要

第1節 当事業の目的及び本報告書について

1-1-1. 目的

知的財産を豊富に創造し、これを保護・活用することにより、わが国の経済と文化の持続的な発展を目指す「知的財産立国」の実現には、質の高い知的財産を生み出す仕組みを整え、知的財産を適切に保護し、社会全体で活用する環境整備が重要である。特に、知的創造サイクルを支える人材の育成・確保は急務であり、学校教育を通じた幼少期からの知的財産マインドの涵養、大学等の高等教育機関における知的財産に明るい人材の育成、中小・ベンチャー企業での知的財産制度に対する理解と関心の増進など、国民全体への知的財産制度に対する意識の醸成と知識の向上を図るための環境整備が重要である。

さらに、国民の知的財産意識を向上させるためには、学校教育機関において知財マインドをもった人材の育成を推進することが重要であるが、「知的財産推進計画」との関連で述べれば、これまで《知的財産推進計画第1期(2003～2005年度)、第2期(2006～2008年度)》の基本方針としては、主に権利保護に注力された。その中で、第2期の最終年にあたる平成20(2008)年度計画では、知的財産推進計画2008の第5章4.「国民の知的財産意識を向上させる」において、(1)「学校における知的財産教育を推進する」こと、(2)「地域における知的財産教育を推進する」こと、(3)知的財産の創造、保護、活用の体験教育を充実する」ことが述べられ、同じく、第5章5.(6)「専門高校における知的財産教育を推進する」においては、「工業高校や農業高校などにおける知財教育に関するこれまでの取組事例を活用するとともに、そのような取組の普及と定着を促すため、地域との連携や学校間の連携を取り入れた教育実践プログラムの開発を支援し、専門高校における知財教育を推進する」ことが述べられ、それぞれ活発に推進されてきた。

平成21(2009)年度からの《知的財産推進計画第3期》の基本方針は、知的財産をいかに経済的価値の創出に結びつけるかを重視することとされ、知財教育を推進する中で知財マインドをもった人材を育成することに関しては、第3期初年度の知的財産推進計画2009のⅡ-1-(3)-②において、『地域における知的財産教育を推進する』(P.7)ことが謳われている。

(<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/090624/2009keikaku.pdf> 参照)

また、平成22(2010)年の知的財産推進計画2010では、今後の我が国の産業の国際競争力強化のための中枢に位置づけ、新成長戦略と連動し、科学技術政策、情報通信技術政策と一体化してスピード感を持って推進することとして、知財人材育成においても「専門学校や大学と産業界等との連携による、コンテンツ分野等の人材育成に関する枠組みモデルの構築」「専門学校や大学と産業界等の連携によるプログラム開発の拡大」「質の高い教育プログラムによるコンテンツ分野等の高度・中堅人材の重点的な養成及び専門学校や大学と産業界等の連携による教育プログラムの改善・更新」などが改善目標として掲げられている。

平成23(2011)年の知的財産推進計画2011においては、東日本大震災への対応を含め、①

国際標準化のステージアップ戦略、②知財イノベーション競争戦略、③最先端デジタル・ネットワーク戦略、④クールジャパン戦略の4つを重点戦略として強力に推進するものとして、「知的財産戦略を支える人財の育成・確保」も挙げられている。

平成24（2012）年の知的財産推進計画2012においては、情勢変化と知的財産戦略の新たな挑戦、国際競争力強化に資する2つの知的財産総合戦略が打ち出され、その中でも情勢変化と知的財産戦略の新たな挑戦の中の3．新時代に立ち向かう知的財産戦略の新たな挑戦においては、知財イノベーションのための総合戦略を協力に推進する。とし、更に最先端の知財マネジメント人財を養成する場の形成や知財マネジメント戦略研究拠点の整備を含め、新たな時代に対応する知財人財を加速的に育成・確保する「知財人財育成プラン」を強力に実行する。とされている。

一方で、国際競争力強化に資する2つの知的財産総合戦略の中では、1．③次世代の知財人財を育成し確保する。として、国内の知的財産権の取得・維持・管理に直接的に関わる「知財専門人材」の育成と併せて、イノベーション戦略に基づきグローバルにイノベーションを創出し、国際競争力の強化に資するような形で、事業戦略に巧みに適切かつ先行的・実践的に知財を活用できる「知財活用人財（知財マネジメント人財）」にまで、知財人財の育成の重点を広げなければならないとしている。

平成25（2013）年の知的財産推進計画2013では、3．グローバル知財人財の育成・確保が上げられており、更に平成26（2014）年の知的財産推進計画2014では、6．政府が中心となった人財育成の場の整備として、政府が主導的な役割を果たして知財人財の育成を行う場の整備を早急かつ着実に進めていくべきであるとしている。

平成27（2015）年の知的財産推進計画2015では、8．知財人財の戦略的な育成・活用のなかで、知財教育の推進について記載されている。

平成28（2016）年の知的財産推進計画2016では、前年度に取り上げられた知財教育の推進から進展し、「知財教育タスクフォース」を設置して、社会と協働した知財教育の推進の在り方について議論を行い、今後、我が国が知財教育を推進していくに当たっての求められる方向性が3点整理された。

- ① “国民一人ひとりが知財人材”を目指した発達の段階に応じた系統的な教育の実施
- ② 社会との関わりや知識の活用を視野に入れた創造性の発展のための仕掛け
- ③ 地域・社会との協働（産学官連携による支援体制構築）の実現

平成29（2017）年の知的財産推進計画2017では、Ⅱ．知財の潜在力を活用した地方創生とイノベーション推進 3．「国民一人ひとりが知財人材」を目指した知財教育・知財人材育成の推進の項目が掲げられ、その項目における現状と課題として「発達段階に応じて、新たな発見や思考の源泉となる創造性を育むとともに、知的財産の保護・活用の重要性に対する理解の増進と態度形成を図り、もって知的財産の創造に始まり、保護・活用に至る知的創造サイクルの好循環を生み出すための人材を育む教育（知財創造教育）の全国的な普及を推進することが求められている。」

その他教育現場においては、高等学校における新学習指導要領が２０１７年度中に改訂予定であり、２０２０年度からは小中高等学校が全面実施することが掲げられている。

一方で、平成２１（２００９）年３月に公示された新しい高等学校学習指導要領においては、「工業技術基礎」の科目で「知的財産権についても扱うこと」、「商品開発」の科目においては「商標権、意匠権及び著作権の意義と概要を扱うこと」、「知的財産権を取得する方法を扱うこと」、科目「農業情報処理」の「情報とモラル」では「個人のプライバシーや著作権など知的財産の保護について扱うこと」が記載される等、多くの教科・科目に知的財産関連の指導が取り入れられ、平成２４（２０１２）年度入学生より全面実施されている。今後、高等学校における知的財産教育を通じた知財マインドをもった人材の育成の取組みは、一層促進されると考えられる。

このような流れに先立ち、「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業（以下、「本事業」という。）の前身の事業は、平成１２（２０００）年度に「産業財産権標準テキストの有効活用に関する実験協力校事業」として開始された。平成１２年度には工業高等学校を対象に事業が実施され、その後、高等専門学校（平成１３（２００１）年度から実施）、商業高等学校（平成１４（２００２）年度から実施）、農業高等学校（平成１５（２００３）年度から実施）においても順次実施された。その後、平成２０（２００８）年度より全国の高等学校（専門学科）及び高等専門学校における知財マインドを持った人材の育成の一層の充実を図るため、これまでの事業名称を「産業財産権標準テキストを活用した知的財産教育推進協力校事業」として実施してきた。

この平成１２（２０００）年度から平成２２（２０１０）年度にかけて実施された「産業財産権標準テキスト」の活用を軸とする事業は、事業実施期間中に多くの成果・実践例を生み出し、我が国における高等学校（専門学科）及び高等専門学校における知財人材の育成（知財教育）の発展に大きな役割を果たしてきた。

そして、平成２３（２０１１）年度からは、産業界からの人材育成に関する要望や、政府の人材育成政策に応えるため、近い将来企業等で活躍することが見込まれる「明日の産業人材」を育成する「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」を新たに展開している。

本事業においては、知的財産権制度に関する理解を深めていく過程において生徒・学生が創作した発明・意匠・商標についてのアイデアを地域の専門家（弁理士等）とのコンサルテーションや地元企業等との連携等により知的財産としていく過程を模擬的な出願書類の作成、試作品の作成、地元企業等との連携を通じた商品の開発等、知的財産権の取得に向けて必要となる活動の体験などの実践の場を通じて知的創造力や実践力・活用力を育む取組を行うことを支援している。

平成２６年度より、知的財産に関する創造力・実践力・活用力に関する実践的な能力を養成する取組の導入と基本的な知識の習得を目指す取組の計画を策定し、その実践を通じて組織的な取組として定着を図っていくことを目的とした「導入・定着型」と、知的財産に関する創造力・実践力・開発力開発事業において知的財産学習の組織的な推進体制ができ、既に知的財産学習が定着し、新たな特徴ある取組にチャレンジする学校を最大３年間支援することを目的とした「展開型」の２種類のタイプによる募集

を行い、平成２７年度以降引き続き募集を行った。

平成２９年度応募校の採択については、外部有識者等からなる「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業 推進委員会」において申請書に記載された取組やその取組を実施するにあたってのマイルストーンを確認しつつ審査を行い、「導入・定着型」として６８校、「展開型」として３校（商業：１校、水産：１校、高専：１校）が採択された。

また、平成２７・２８・２９年度に「展開型」として採択を受けた１４校（５校、６校、３校）においては、「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業 推進委員会」へ活動年度の取組内容及び計画の進捗状況を報告し、委員会より取組内容において高評価とされる点と次年度の取組を行うにあたっての留意点等の御意見をいただいた。

なお、委員会からの意見を取り入れつつ、取組を継続していく事となった。なお、平成２７年度採択校（５校）に当たっては、３年間の期間満了により今年度で終了となる。

1-1-2 . 本報告書の内容

知財マインドを持った人材の育成とその取組の普及や定着を図るために、参加校における生徒又は学生が知的財産に関する知識の習得や創造力及び実践力・活用力を育む過程についてを分析するとともに、取組を通しての地域や関係機関からの支援や連携の状況の具体的な事例を収集してとりまとめを行ったものである。

各学校の実践活動は、1年間にわたる取組であり、この調査は、(1) 参加校からの年間指導報告書及び(2) 年次報告会時における教員・教官に対するアンケート結果等を元に作成している。

1-1-3 . 参加学校数の推移

本事業と、前身の「産業財産権標準テキストの有効活用に関する実験協力校事業」(H19年度以前)及び「産業財産権標準テキストを活用した知的財産教育推進協力校事業」(H20～22年度)も含めた参加校数(延べ数)は、下記の表およびグラフのとおりである。

表 1-1-1 参加校数の推移(平成23年度以前は前身の事業)

実施年度	H16 以前	H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	合計 (延べ数)
工業高等学校	241	54	44	39	23	25	34	39	48	53	48	48	39	36	771
商業高等学校	47	21	31	23	10	10	13	11	21	28	19	24	20	21	299
農業高等学校	24	22	18	13	9	6	12	10	13	13	10	15	15	9	189
水産高等学校	---	---	---	---	---	---	2	3	5	5	7	7	5	8	42
高等学校 合計	312	97	93	75	42	41	61	63	87	99	84	94	79	74	1,301
高等専門 学校	51	14	13	15	17	15	19	14	13	14	16	9	10	8	228
全合計	363	111	106	90	59	56	80	77	100	113	100	103	89	82	1,529

図 1-1-1 参加校数の推移 (H23 以前は前身の事業)

今年度の本事業参加校の分布を以下に示す。

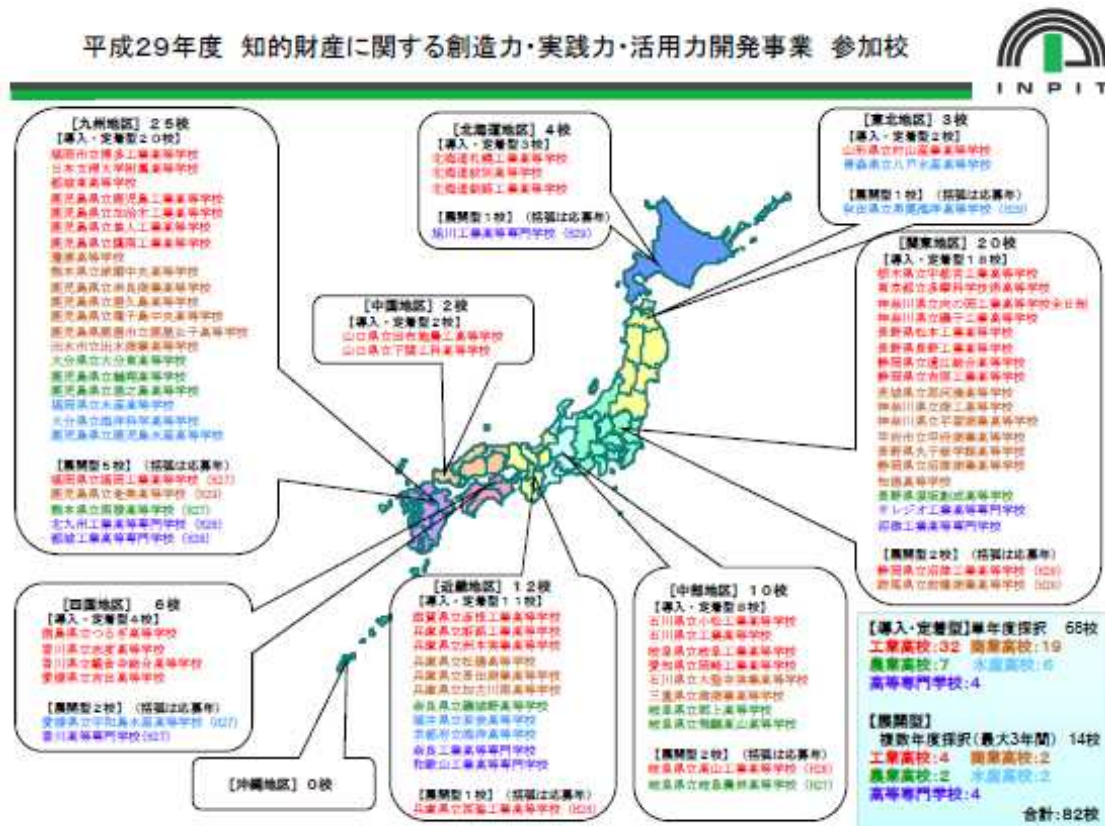
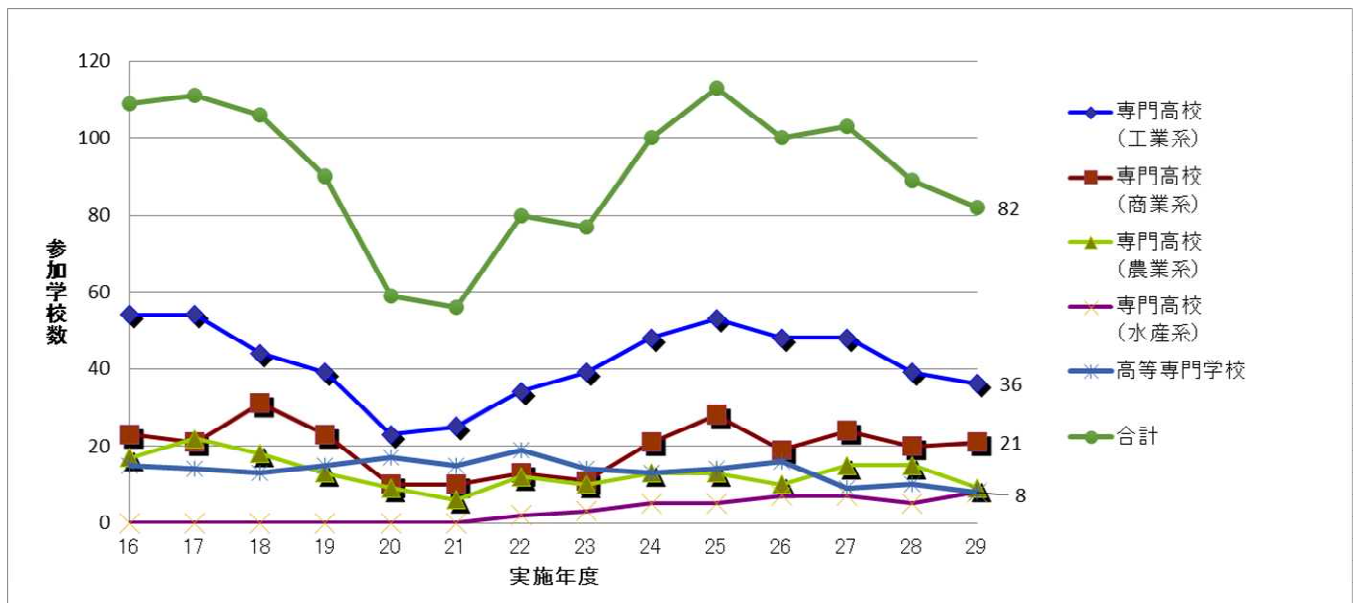


図 1-1-2 参加校の分布



第2節 平成29年度参加校の活動概要

参加校（82校）の取組内容は以下のとおり。

- （１） 予め「年間指導計画書」および「学期指導計画書」を策定し、同計画に基づき、下記項目（２）のような活動を行なった。
- （２） 知財マインドを持ち、創造力・実践力・活用力の育成に重点を置いた取組の内容は、各参加校においてそれぞれ策定したが、指導内容の例として次の項目が挙げられる。
 - a) 産業財産権標準テキストを用いた指導活動
 - b) 課題解決の体験（創作活動・課題研究・商品開発）
 - c) 外部講師を招聘して知的財産に関する講演会・セミナーを開催
 - d) 研究活動による創作内容に関する知的財産情報の活用、権利化への試み等、知的財産権手続に関するプロセスの体験
 - e) 知的財産の尊重、過去の科学の発展史の学習
 - f) 各地域において、地元企業・諸団体・他校と連携して、取組の支援を受け、また、知的財産を普及する活動
- （３） 参加校相互の連絡・情報交換の場として、さらには成果発表の場として、地域別交流・研究協議会および年次報告会を行なった。

1-2-1 . 年間活動概要

平成29年度の活動の概要は以下のとおりである。

表1-2-1 平成29年度の活動の概要

事業活動		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	事業説明会開催	●											
2	指導計画書(年間・学期)の提出		●										
3	支出計画書(年間)の提出		●										
4	地域別交流・研究協議会開催 (経済産業局管轄地域ごとに全国5箇所で開催)				●	●							
5	中間報告用資料の提出				●	●							
6	成果展示・発表会開催 (さんフェア秋田 2017 内)								●				
7	(次年度参加校の公募)							●	●				
8	年間指導報告書・報告書要約書提出									●	●		
9	年次報告会開催・アンケート提出										●	●	
10	活動終了												●

1-2-2. 事業説明会

知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業の開始にあたり、学校種別を問わずに、参加校全 82 校を対象とし、本事業に関する説明会を開催した。

事業説明会(進行1)では、学校長および担当教員(教官)に対する特許庁 総務部企画調査課 知的財産活用企画調整官 浜岸 広明氏、文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 田畑 淳一氏、日本弁理士会 副会長 福島 三雄氏の挨拶が行われた。その後、独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部長 河端 賢による本事業の説明が行われたのち、株式会社アイ・オー・データ機器 代表取締役社長 細野 昭雄様による特別講演1「我が社における知財人材の確保及び育成について」がなされ、続けて講師を株式会社アイ・オー・データ機器 代表取締役社長 細野 昭雄様、モデレーターを独立行政法人工業所有権情報・研修館 理事長 三木 俊克とし質疑応答がなされた。

休憩を挟み、独立行政法人工業所有権情報・研修館 理事 小林 徹、独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部 主査 由井 義仁による事業に関する事務手続・経費処理等についての説明と注意事項が行われたのち、アドバイザーを代表して統括アドバイザーである愛媛県立松山工業高等学校 校長 内藤 善文氏より挨拶を行った。

休憩を挟み、分科会(進行2)では、校種別に分かれ、昨年度に開発事業に参加された教員により、実践的な開発事業の取組活動の発表を行った。

休憩を挟み、分科会(進行3)では、再度全員が最初の部屋に集まり、副統括アドバイザーの鹿児島県立加治木工業高等学校 校長 満丸 浩氏より事業説明会のまとめの話がなされ、最後に、独立行政法人工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 鳥居 稔より説明、挨拶がなされた。

イ. 日時／場所／参加校内訳

日時：平成29（2017）年4月19日（水）

場所：ラーニングスクエア新橋（〒105-0004 東京都港区新橋4-21-3 新橋東急ビル）

参加校数：82校（参加校 全校を対象とする）

【参加校】（82校）

展開型採択校（14校）

福岡県立福岡工業高等学校
熊本県立南稜高等学校
香川高等専門学校
岐阜県立高山工業高等学校
群馬県立前橋商業高等学校
都城工業高等専門学校
秋田県立男鹿海洋高等学校

岐阜県立岐阜農林高等学校
愛媛県立宇和島水産高等学校
静岡県立沼津工業高等学校
兵庫県立西脇工業高等学校
北九州工業高等専門学校
鹿児島県立奄美高等学校
旭川工業高等専門学校

導入・定着型採択校（68校）

I. 工業（32校）

北海道札幌工業高等学校	北海道紋別高等学校
北海道釧路工業高等学校	山形県立村山産業高等学校
栃木県立宇都宮工業高等学校	東京都立多摩科学技術高等学校
神奈川県立向の岡工業高等学校（全日制）	神奈川県立磯子工業高等学校
長野県松本工業高等学校	長野県長野工業高等学校
静岡県立遠江総合高等学校	静岡県立吉原工業高等学校
石川県立小松工業高等学校	石川県立工業高等学校
岐阜県立岐阜工業高等学校	愛知県立岡崎工業高等学校
滋賀県立彦根工業高等学校	兵庫県立姫路工業高等学校
兵庫県立洲本実業高等学校	山口県立田布施農工高等学校
山口県立下関工科高等学校	徳島県立つるぎ高等学校
香川県立志度高等学校	香川県立観音寺総合高等学校
愛媛県立吉田高等学校	福岡市立博多工業高等学校
日本文理大学附属高等学校	都城東高等学校
鹿児島県立鹿児島工業高等学校	鹿児島県立加治木工業高等学校
鹿児島県立隼人工業高等学校	鹿児島県立薩南工業高等学校

II. 商業（19校）

茨城県立那珂湊高等学校	神奈川県立商工高等学校
神奈川県立平塚商業高等学校	甲府市立甲府商業高等学校
長野県丸子修学館高等学校	静岡県立沼津商業高等学校
知徳高等学校	石川県立大聖寺実業高等学校
三重県立津商業高等学校	兵庫県立松陽高等学校
兵庫県立長田商業高等学校	兵庫県立加古川南高等学校
瓊浦高等学校	熊本県立球磨中央高等学校
鹿児島県立屋久島高等学校	出水市立出水商業高等学校
鹿児島県立種子島中央高等学校	鹿児島県鹿屋市立鹿屋女子高等学校
鹿児島県立串良商業高等学校	

III. 農業（7校）

長野県須坂創成高等学校	岐阜県立郡上高等学校
岐阜県立飛騨高山高等学校	奈良県立磯城野高等学校
大分県立大分東高等学校	鹿児島県立徳之島高等学校
鹿児島県立鶴翔高等学校	

IV. 水産（6校）

青森県立八戸水産高等学校	福井県立若狭高等学校
--------------	------------

京都府立海洋高等学校
福岡県立水産高等学校

大分県立海洋科学高等学校
鹿児島県立鹿児島水産高等学校

V. 高専（4校）

サレジオ工業高等専門学校
奈良工業高等専門学校

沼津工業高等専門学校
和歌山工業高等専門学校

図 1-2-2 事業説明会次第

平成 29 年度「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」
事業説明会 次第



1. 日 時：平成 29 年 4 月 19 日（水） 12：00 ～ 16：35（予定）

2. 会 場：ラーニングスクエア新橋

（〒105-0004 東京都港区新橋 4-21-3 新橋東急ビル）

TEL：0120-677-783（事務所直通）

3. 進 行

進行 1：全体会 6 階 会議室 6-A 12:00 ～ 14:45 (165 分)

1) 開会挨拶 12:00 (5 分)

（独）工業所有権情報・研修館 理事長 三木 俊克

2) 来賓御挨拶（来賓御紹介）

12:05 (15 分)

特許庁 総務部企画調査課 知的財産活用企画調整官 浜岸 広明 様

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部

教育課程調査官 田畑 淳一 様

日本弁理士会 副会長 福島 三雄 様

3) 「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」事業説明 12:20 (15 分)

（独）工業所有権情報・研修館 知財人材部長 河端 賢

4) 特別講演「我が社における知財人材の確保及び育成について」

12:35 (60 分)

株式会社アイ・オー・データ機器 代表取締役社長 細野 昭雄 様

5) 質疑応答 13:35 (20 分)

講師：株式会社アイ・オー・データ機器 代表取締役社長 細野 昭雄 様

モデレーター：独立行政法人工業所有権情報・研修館 理事長 三木 俊克

（休憩 10 分）開始時間 14：05

6) 事務手続・経費処理等に関するお願い 14:05 (30 分)

（独）工業所有権情報・研修館 理事 小林 徹

（独）工業所有権情報・研修館 知財人材部 知財人材部 主査 由井 義仁

7) 本事業の実施にあたって 14:35 (10 分)

統括アドバイザー 愛媛県立松山工業高等学校 校長 内藤 善文 様

（休憩 15 分）開始時間 15：00

進行 2_分科会 1 : 校種別実践事例報告

15:00～16:10(70 分)

- ①工業高等学校 参加校からの実践事例報告 6階 会議室 6-A
- 発表 兵庫県立西脇工業高等学校 教諭 上延 幸司 様 (展開型校)
- 鹿児島県立薩南工業高等学校 教諭 上野 正善 様 (導入・定着型校)
- 進行等 講師：北海道紋別高等学校 校長 新山 雄士 様
- 兵庫県立西脇工業高等学校 教諭 吉田 道広 様

2校発表後、出席校における討議

- ②商業高等学校 参加校からの実践事例報告 6階 会議室 6-D
- 発表 群馬県立前橋商業高等学校 教諭 熊谷 博 様 (展開型校)
- 静岡県立沼津商業高等学校 教諭 松井 一将 様 (導入・定着型校)
- 進行等 講師：瓊浦高等学校 教諭 阿部 泰宣 様

2校発表後、出席校における討議

- ③農業・水産高等学校 参加校からの実践事例報告 4階 会議室 4-A
- 発表 秋田県立男鹿海洋高等学校 教諭 大高 英俊 様 (展開型校)
- 鹿児島県立鶴翔高等学校 教諭 山口 美枝 様 (導入・定着型校)
- 進行等 講師：大分県立海洋科学高等学校 教諭 中村晋太郎 様
- 秋田県立男鹿海洋高等学校 教諭 大高 英俊 様
- 奈良県立磯城野高等学校 教諭 滝内香代子 様

2校発表後、出席校における討議

- ④高等専門学校 参加校からの実践事例報告 4階 会議室 4-D
- 発表 北九州工業高等専門学校 准教授 滝本 隆 様 (展開型校)
- サレジオ工業高等専門学校 准教授 富田 雅史 様 (導入・定着型校)
- 進行等 講師：沼津工業高等専門学校 教授 大津 孝佳 様

2校発表後、出席校における討議

統括アドバイザー 愛媛県立松山工業高等学校 校長 内藤 善文 様

副統括アドバイザー 鹿児島県立加治木工業高等学校 校長 満丸 浩 様

のお二方には、4つの発表会場を回っていただきまとめの部分でコメントを頂きます。

(休憩 10 分) 開始時間 16:20

進行 3_まとめ 6階 会議室 6-A

16:20～16:35(15 分)

アドバイザーを代表して

副統括アドバイザー 鹿児島県立加治木工業高等学校 校長 満丸 浩 様

最後に

説明等 (独) 工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 鳥居 稔

以上

【実施風景】



開会挨拶

(独) 工業所有権情報・研修館 理事長
三木 俊克



「知的財産に関する創造力・実践力・活用力
開発事業」事業説明

(独) 工業所有権情報・研修館
知財人材部長 河端 賢



特別講演「我が社における知財人材の
確保及び育成について」
株式会社アイ・オー・データ機器
代表取締役社長 細野 昭雄 様



本事業の実施にあたって

統括アドバイザー 内藤 善文 様



参加校からの実践事例報告



アドバイザーを代表して

副統括アドバイザー 満丸 浩 様

1－2－3．地域別交流・研究協議会事前調整会議

1．実施概要

事前調整会議の実施概要を下記に記す。

ア．概要：地域別交流・研究協議会の実施内容等について

助言方法等の研究協議

その他

イ．日時／場所

日時：平成29年 6月4日（日） 9：00～12：00

場所：（独）工業所有権情報・研修館 地下1階会議室

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3－8－1 虎の門三井ビルディング

【参加者】

◆アドバイザー（敬称略）

	氏 名	所 属・役 職
1	内藤 善文	愛媛県立松山工業高等学校 校長
2	満丸 浩	鹿児島県立加治木工業高等学校 校長
3	新山 雄士	北海道紋別高等学校 校長
4	吉田 道広	兵庫県立西脇工業高等学校 教諭
5	阿部 泰宣	長崎県私立 瓊浦高等学校 教諭
6	中村 晋太郎	大分県立海洋科学高等学校 教諭
7	大高 英俊	秋田県立男鹿海洋高等学校 教諭
8	滝内 香代子	奈良県立磯城野高等学校 教諭
9	大津 孝佳	独立行政法人国立高等専門学校機構 沼津工業高等専門学校 教授

欠席

欠席

以上9名（うち2名欠席）

◆独立行政法人工業所有権情報・研修館（敬称略）

	氏 名	所 属・役 職
1	鳥居 稔	人材開発統括監
2	河端 賢	知財人材部長
3	岡 英範	知財人材部 部長代理（人材育成環境整備担当）
4	由井 義仁	知財人材部 主査（人材育成環境整備担当）

以上4名

平成29年度 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業
地域別交流・研究協議会 事前調整会議

次 第

1. 日 時：平成29年6月4日（日） 09:00 ～ 12:00
2. 場 所：（独）工業所有権情報・研修館 7階（大）会議室（虎の門三井ビルディング7F）
3. 議 事
 - (1) 開会挨拶 09:00～09:05（05分）
（独）工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 鳥居 稔
 - (2) 地域別交流・研究協議会について内容及び進め方について 09:05～10:15（70分）
（当日の役割分担と進め方についても確認）
 - (3) 地域別交流・研究協議会における地域担当のアドバイザーについて 10:15～10:30（15分）
（独）工業所有権情報・研修館 知財人材部長代理 岡 英範

～ 休 憩（10分） ～ （10分）
 - (4) 当日（会場配布）用アンケートについて 10:40～11:00（20分）
 - (5) これまでの開発事業全体を踏まえた意見交換 11:00～11:30（30分）
 - (6) まとめ 11:30～11:50（20分）
副統括アドバイザー 鹿児島県立加治木工業高等学校 校長 満丸 浩 氏
 - (7) 閉会挨拶 11:50～12:00（10分）
（独）工業所有権情報・研修館 知財人材部長 河端 賢

1－2－4．地域別交流・研究協議会

地域ごとに教員の皆様方による日頃の知財学習指導等についての研究・協議を行うと共に、各参加校の生徒の皆様にも可能な限り御出席いただき、各学校の知財学習の状況の発表やJ－P l a t P a t 検索とグループ内討議等を通して、教員及び生徒それぞれが地域間で交流を図り、それにより校種を越えた学校間連携により従来の知財学習を更に拡大していくことを狙いとして、全国5箇所において開催した。

その開催場所・日程は次のとおりである。本事業への参加校のみならず、参加されていない学校からの参加もあり参加層も広がった。

日時／場所

- | | |
|--------------------|--|
| 【九州地区】7月25日（火） | TKP ガーデンシティ鹿児島中央
(鹿児島県鹿児島市中央町 26-1 南国アネックス) |
| 【北海道・東北地区】7月31日（月） | TKP 札幌カンファレンスセンター
(北海道札幌市中央区 北3条西 3-1-6) |
| 【中国・四国地区】8月2日（水） | 高松商工会議所 (香川県高松市番町 2-2-2) |
| 【中部・近畿地区】8月8日（火） | 新大阪丸ビル別館
(大阪府大阪市東淀川区東中島 1-18-22) |
| 【関東地区】8月22日（火） | ラーニングスクエア新橋
(東京都港区新橋 4-21-3 新橋東急ビル) |

開催場所は、昨年同様、開催地区の交通の便のよいところであり、且つ駅前にある貸し会議室を開催場所とした。



地域別研究協議会(北海道・東北地区)



地域別研究協議会(中国・四国地区)

図 1-2-4 地域別・研究協議会次第(関東)

平成 29 年度 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業
地域別交流・研究協議会
次 第

1. 日 時：平成 29 年 8 月 22 日（火） 12：30～16：50

2. 会 場：ラーニングスクエア新橋 4 階
東京都港区新橋 4-2-1-3 新橋東急ビル

3. 議 事

【全体会】

- (1) 主催者挨拶及び来賓紹介 12：30～12：35（5 分）
（独）工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 谷山 稔男
特許庁 総務部企画調査課 知的財産活用企画調整官 柴田 昌弘 氏
- (2) アドバイザーの紹介 12：35～12：40（5 分）
- (3) アドバイザーからの趣旨説明 12：40～12：55（15 分）
副統括アドバイザー 鹿児島県立加治木工業高等学校 校長 満丸 浩 氏
～ 会場移動・休憩（10 分）～ 12：55～13：05（10 分）

【分科会】

『生徒・学生』

- (4) -1 特許製品の観察と特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）を用いての検索体験
13：05～15：40（155 分）
- | | | | |
|-----------|------------------|----|----------|
| 副統括アドバイザー | 鹿児島県立加治木工業高等学校 | 校長 | 満丸 浩 氏 |
| アドバイザー | 独立行政法人国立高等専門学校機構 | | |
| | 沼津工業高等専門学校 | 教授 | 大津 孝佳 氏 |
| アドバイザー | 北海道紋別高等学校 | 校長 | 新山 雄士 氏 |
| アドバイザー | 奈良県立磯城野高等学校 | 教諭 | 滝内 香代子 氏 |
| アドバイザー | 長崎県 私立 瓊浦高等学校 | 教諭 | 阿部 泰宣 氏 |

- ① 自己紹介（5 分）
- ② アドバイザーからの趣旨説明 前半（15 分）
- ③ 特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）の検索について（15 分）
- ④ 自分で調べてきた文房具の紹介 グループ内で（10 分）
- ⑤ アドバイザーからの趣旨説明 後半（10 分）

～ 休 憩（15 分）～ 14：00～14：15（15 分）

- ⑥ 特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）を使用して調べてきた文房具の検索体験とグループ内での討議（30 分）
- ⑦ グループ毎での発表のまとめ作業（35 分）
- ⑧ アドバイザーからの簡単なまとめ（10 分）
- ～ 休 憩（10 分）～ 15：30～15：40（10 分）

《教員・教授》

(4) -2 知的財産学習の進め方についての協議（意見交換） 13：05～15：40（155分）

副統括アドバイザー	鹿児島県立加治木工業高等学校	校長	満丸 浩 氏
アドバイザー	兵庫県立西脇工業高等学校	教諭	吉田 道広 氏
アドバイザー	大分県立海洋科学高等学校	教諭	中村 晋太郎 氏
アドバイザー	秋田県立男鹿海洋高等学校	教諭	大高 英俊 氏

① I N P I T事務局からの事務連絡（10分）

（独）工業所有権情報・研修館 知財人材部長代理 岡 英範

② アドバイザーからの趣旨説明（15分）

③ 自校の取組紹介 <別紙2「事業進捗状況報告メモ」>について（40分）

- ・グループ毎に分かれ、グループ内のメンバーに対して1分間（時間厳守）で『目標・取組・成果』について発表してもらいます。6人／2グループ、7人／1グループ [7分]
- ・自校の取組内容の再確認 [10分]
- ・再度、グループ内のメンバーに対して1分間で『目標・取組・成果』について発表してもらいます。6人／2グループ、7人／1グループ [7分]
- ・その発表した内容に沿って、別紙2を改めて書いていただきます。[16分]
⇒ 提出していただきます。書けていないようであれば、後日提出願います。
（アンケート用紙の記載も含む）

～ 休 憩（10分） ～

14：10～14：20（10分）

④ <別紙2「事業進捗状況報告メモ」>のアドバイスして欲しいことについて、グループ内で討議（60分）

- ・先程のグループ毎に分かれ、グループ内のメンバーに対して2分間で自校の『アドバイスして欲しいこと』について発表してもらいます。
6人／2グループ、7人／1グループ [15分]
- ・グループ毎で発表されたことについて討議 [15分]
- ・グループ毎でまとめたことについての発表 1グループ3分 [10分]
（アドバイザー等からの回答含む）
- ・質疑応答 [20分]

⑤ アドバイザーからのまとめ（10分）

～ 休 憩（10分） ～

15：30～15：40（10分）

【全体会】

(5) 生徒・学生によるグループ討議の結果発表 15：40～16：20（40分）

(6) 参加アドバイザーからの感想と副統括アドバイザーからの総評 16：20～16：40（20分）

(7) 事務局連絡、閉会挨拶 16：40～16：50（10分）

（独）工業所有権情報・研修館 知財人材部長 河端 賢

1-2-5. 成果展示・発表会

平成29年10月21～22日に、本事業における取組の一環として、生徒に自らの取組の成果を説明・発表する経験を積んでもらうこと、及び、本事業の取組の周知を図ることを目的に、「第27回全国産業教育フェア秋田大会（さんフェア秋田2017）」において、本事業参加校によるこれまでの取組の成果を発表する「成果展示・発表会」を開催しました。本年度は、事業参加校のうち13校の生徒・教員が成果展示・発表会に参加した。

開催概要

・期日：平成29年10月21日（土）～10月22日（日）

・会場：第27回全国産業教育フェア秋田大会内

展示会・発表会 秋田県民会館ジョイナス

・主催：独立行政法人 工業所有権情報・研修館

・後援：東北経済産業局、特許庁、株式会社秋田魁新報社

<展示会> 10月21日（土） 10:30 ～ 15:30

10月22日（日） 9:30 ～ 14:30

<発表会> 10月21日（土） 10:30 ～ 14:30

展示会 21日（土）～22日（日）

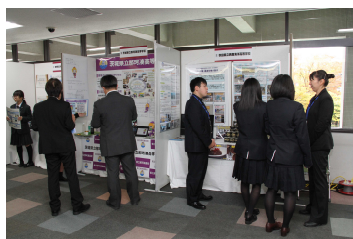
秋田県民会館ジョイナスにおいて、知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業で取り組んだ知的財産学習の成果である製品・商品・試作品などや、それらの内容を説明したパネル・ポスターなどを展示します。そして、それらの創作に取り組んだ生徒が展示内容について説明を行いました。生徒達は、来場者と積極的に対話し、自身の取組のセールスポイントなどを説明しました。

いずれも優秀な展示内容で各校の実力が拮抗するなか、優秀賞（展示）を、審査員とINPIT事務局により1校選出いたしました。

発表会 21日（土）

秋田県民会館ジョイナスにおいて、知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業で取り組んだ知的財産学習の成果である製品・商品・試作品などについて、これまでの参加各校の取組の成果について、生徒による成果発表（プレゼンテーション）を実施しました。生徒達は、限られた時間の中、取組の成果について、それぞれ工夫を凝らした発表を行いました。また、地元秋田県の企業・団体・マスコミ及び特許庁の方々にご参加いただき、大変有意義なコメント、ご質問等をいただきながら、創造力・実践力・活用力等の観点で審査していただきました。いずれも優秀な発表で各校の実力が拮抗するなか、各観点からの優秀校1校ずつが選ばれました。更に審査員特別賞を、審査員とINPIT事務局により2校選出いたしました。

展示会



発表会



- ① 秋田県立男鹿海洋高等学校 **【審査員特別賞】** 地域貢献への取り組み

- ② 茨城県立那珂湊高等学校 **【優秀賞（展示）】**
爆発的人気商品となった飲料開発から学ぶ著作権と商標権

- ③ 東京都立多摩科学技術高等学校 **【優秀創造力賞】**
進学型専門高校における知的財産学習の取り組み

- ④ 静岡県立沼津工業高等学校
本校電子科の知的財産教育への取り組み

- ⑤ 岐阜県立岐阜農林高等学校 **【優秀活用力賞】**
地域社会の教育力を活用する知財学習

- ⑥ 岐阜県立岐阜工業高等学校
レイヤードストラクチャ（レーザー加工と応用）

- ⑦ 福井県立若狭高等学校
若狭の海から発酵パワーを発信

- ⑧ 奈良県立磯城野高等学校 **【審査員特別賞】**
磯城野商品のブランド化

- ⑨ 兵庫県立西脇工業高等学校
本校の知的財産教育の取り組み

- ⑩ 山口県立下関工科高等学校
本校の取り組みと卒業生の顕著な実績

- ⑪ 愛媛県立宇和島水産高等学校
地域資源を利用した新製品の開発

- ⑫ 鹿児島県立串良商業高等学校
串商（なかなかあきない）プロジェクト

- ⑬ 鹿児島県立鹿児島水産高等学校 **【優秀実践力賞】**
飼育10年！チョウザメ・キャビアで知財学習！

1-2-6. 年次報告会

【実施概要】

年次報告会の実施概要を下記に記す。

ア. 概要

平成30年1月26日に、年次報告会を次のとおり開催し、各校は実践結果について報告した。

年次報告会においては全校種合同での全体会を行い、午後からはグループに分かれての分科会となった。内容は各校から「年間指導報告書」に基づいて、指導実績、ものづくりや商品開発・商品販売の過程における産業財産権教育の指導内容、活動全体を総括しての成果、産業財産が身近で大切なものとして理解が深められたこと、創造する楽しさ、能力の育成が図られたこと等が、パワーポイントなどを活用して報告された。

イ. 実施期間／場所／参加校内訳

日時：平成30（2018）年1月26日（金）

場所：

参加校数：82校（参加校 全校を対象とする）



年次報告会(参加校からの年次報告)



年次報告会(班別討議)

図 1-2-6 年次報告会次第

平成29年度「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」
年次報告会

次 第

【日時】 平成30年1月26日（金） 11:00 ～ 16:30

【会場】 ラーニングスクエア新橋
（〒105-0004 東京都港区新橋4-2-1-3 新橋東急ビル）

1. 開会挨拶

独立行政法人 工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 谷山 稔男

2. 特許庁挨拶

特許庁 総務部企画調査課 知的財産活用企画調整官 柴田 昌弘 様

3. 来賓挨拶

文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 産業教育振興室 教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官（水産）
西澤 美彦 様

4. アドバイザー紹介

5. 事務局人事異動紹介

6. 参加校からの年次報告

<展開型校>

兵庫県立西脇工業高等学校	教諭	上延 幸司 様
秋田県立男鹿海洋高等学校	教諭	大高 英俊 様

<導入・定着型>

長崎県 瓊浦高等学校	教諭	阿部 泰宣 様
奈良県立磯城野高等学校	教諭	滝内香代子 様

7. 休憩（昼休み）（上記終了後～12:40）

休憩後は、各班別に別れての分科会となります。

8. 参加校からの年次報告（1校10分、（高専15分）質疑応答を含む）12:40 開始

9. 班別討議（40分）

10. 休憩（15分）（この休憩の間に、6-Aに移動をお願いします。）

11. グループ別発表（35分）

12. アドバイザーからのまとめ

副統括アドバイザー 鹿児島県立加治木工業高等学校 校長 満丸 浩 様
統括アドバイザー 愛媛県立松山工業高等学校 校長 内藤 善文 様

13. 閉会挨拶

独立行政法人 工業所有権情報・研修館 知財人材部長 河端 賢

以 上

第3節 参加校の指導対象・取組内容

表1-3-1 に、参加校（工業高等学校36校、商業高等学校21校、農業・水産高等学校17校、高等専門学校8校 合計82校）の指導対象・取組内容（取組の目的・目標の要約）を記す。

表1-3-1 各校の指導対象・取組内容

工業高等学校

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
3 展工 01	福岡県立 福岡工業 高等学校	1年	全学科	講演会	各学科が企業や地域・大学など外部団体と連携して知的財産教育を行う
		1年	電子工学科	工業技術基礎	
		1年	全学科	募集	
		1年	工業進学コース	工業技術基礎	
		1年	情報工学科	工業技術基礎	
		1年	電気工学科	工業技術基礎	
		2年	電子工学科	ものづくり	
		3年	染織デザイン科	課題研究	
		3年	情報工学科	課題研究	
		3年	環境化学科	課題研究	
		3年	電子工学科	課題研究	
		3年	全学科	講演会	
		1,2,3年	全学科	募集	

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
2 展工 01	静岡県立沼津工業高等学校	1年	全科	「工業技術基礎」／実習	展開型2年目として、校内では生徒・教職員に知的財産マインドを更に浸透させる。また、校外の地域交流の中で、小中学生にものづくりを通じたアイデアを創出する力を身につけさせる。
		1年	全科	「情報技術基礎」／座学	
		1年	全科	「知財について」／ 課外授業	
		1年	全科	「知的財産に関する講演会」／講演	
		2年	全科	インターンシップ／ 企業連携	
		2年	全科	「知的財産に関する講演会」／講演	
		3年	全科	「課題研究」／ 各科課題研究グループ	
		1,2,3 年	全科	「課題研究発表会」／ 集会形式	
2 展工 02	岐阜県立高山工業高等学校	1年	全学科	工業技術基礎／ 授業・実習	「優れたアイデアを商品として開発・改善・ 生産・販売する手順の研究」 ～地域資源を活用した「自立型人材」の育成～ 「飛驒の匠の技と心を継承する」高山工業生を育成するために、ものづくりを通じてアイデアを知的財産権へ具体化する力を育成する。また、優れたアイデアを産業に発展させることを視野に入れ、アイデア作品を商品として開発販売する手順の研究を行う。
		1年	全学科	情報技術基礎／ 授業・実習	
		1年	電気科	工業技術基礎／実習	
		1年	電子機械科	工業技術基礎／実習	
		2年	電子機械科	電子機械実習／実習	
		2年	機械科	機械実習／実習	
		2年	電気科	電気実習／実習	
		2年	建築インテリア科	製図／実習	
		3年	電子機械科	電子機械実習／実習	
		3年	建築インテリア科	匠(学校設定科目)／実習	
		3年	全学科	課題研究／実習	
		部活動	全学科	生産系部活動／特別活動	

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
2 展工 03	兵庫県立 西脇工業 高等学校	1年	情報・ 繊維科	工業基礎／授業・講演	知的財産学習を活用した、地場産業へ貢献する 製品の開発 ものづくりの学習を通して知的財産制度に関する基礎知識の理解を向上させ、ものづくりのためのアイデア創出力など実践的な能力を持った生徒を育成する。
		2年	情報・ 繊維科	実習／授業・実習・講演	
		3年	情報・ 繊維科	課題研究／授業・実習	
		全学年	情報・ 繊維科	プログラミング技術／ 実習・講演	
工 01	北海道 札幌工業 高等学校	1年	建築科	工業技術基礎／座学・実習	知的財産教育の定着及び北海道内工業高校における取り組みスタンダードの具体化により知財民度を高める。
		2年	建築科	実習／実習	
		3年	建築科	課題研究／班別実習	
		1,2,3 年	建築科	建築研究同好会／部活動	
工 02	北海道 紋別 高等学校	2年	電子機械科	実習	1. 各手法を用いて自立的にアイデア創出とその活用ができる豊かな創造力を育成する 2. ロボット製作を通して、質の高いアイデア創出とアイデアを形にしていく過程を充実する 3. 学習時間の確保と学校事情に合わせた効果的な指導方法を研究・整備する 4. 校内における取組体制の拡大と指導方法を向上させる
		3年	電子機械科	課題研究	
		2,3年	電子機械科	ロボット研究部	
工 03	北海道 釧路工業 高等学校	1年	電子機械科	情報技術基礎／座学	・知的財産に関する基礎・基本の定着と環境づくり ・ロボット製作やモノづくりを通じた知的財産権の理解と創造性の育成
		3年	電子機械科	課題研究／実習	
工 04	山形県立 村山産業 高等学校	1,2,3 年	全学科	特別活動／座学	・低炭素社会を目指した、社会に役立つものづくりを通じた知的財産権の理解と取得を目指す。 ・工業科(機械科・電子情報科)を中心にものづくりによる知的財産教育を展開し、農業科と工業科が連携し知的財産を意識した新しいものづくりをする。
		1年	電子情報科	工業技術基礎／座学	
		1年	機械科	特別活動／座学	
		2年	電子情報科	特別活動／座学	
		3年	電子情報科	課題研究／座学・実習	
		3年	電子情報科	地球環境化学／座学・演習	

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
工 05	栃木県立 宇都宮工業 高等学校	1年	全学科	科学技術と産業／講義	・知的財産権に関する理解を深めるとともに、「校内パテントコンテスト」をより活性化させ、「全日本学生児童発明工夫展覧」、「パテントコンテスト」で入選できるような創造性豊かな生徒育成を目指す。 ・豊かな感性を持ち創造力を具現化できるものづくりに主体的に取り組める生徒の育成を目指す。
		1年	全学科	科学技術と産業／ 校内パテントコンテスト応募	
		1年	全学科	科学技術と産業／ ペーパータワーの製作	
		2,3年	全学科	課外活動／ 校内パテントコンテスト応募	
		全学年	全学科	課外活動／栃木県児童生徒 発明工夫展出展	
		1年	電子機械科	課外活動／全日本学生児童 発明工夫展出展	
		全学年	機械科・ 電子機械科	課外活動・課題研究／ ロボット製作	
		3年	電子機械科	課外活動／ 最先端技術の講演、実演	
		1,3年	電子機械科	課題研究／アメイロケット製作	
		3年	建築デザイン科	課外活動／全国産業教育フェア 秋田大会見学	
工 06	東京都立 多摩科学技 術高等学校	1年	科学技術科	科学技術と人間	進学重点型理系専門高校における知的財産意識向上の取組
		2年	科学技術科	課題研究	
工 07	神奈川県立 向の岡工業 高等学校 全日制	全学年	全科	ものづくり講演会	「ものづくり」を通して、知的財産の知識を身につけ、これを活用できる人材の育成を図る。
		全学年	電気科	情報技術基礎・実習・課題研究	
		3年	全科	課題研究	
		放送部	全科	部活動	
		テクノフ ァクトリ ー	全科	課外活動	

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
工 08	神奈川県立 磯子工業 高等学校	3年	電気科	課題研究／班別	ものづくりを通し、身近な問題を解決するアイデアを引き出す学習機会を提供し、知的財産・創造活動に興味を持たせる。
工 09	長野県 松本工業 高等学校	1年	全学科	LHR／講演会	知的財産学習を通してパテントコンテストを目指す取り組み 1 年 知的財産権の基礎知識と創作意欲の向上 2 年 創作・発明への知識を深め、自分のアイデアを表現する。 3 年 製作を通して、知的財産への理解を深め、創意工夫した成果を発表できる。 クラブ活動 : 発明くふう展への応募へ向けて各自のアイデアを出し形にする。
		1年	機械科	LHR／講義・実習	
		2年	全学科	課外活動／講義・実習	
		3年	機械科	課題研究／講義	
		3年	機械科	課題研究／調査研究・制作	
		全学年	全学科	課外活動／調査制作	
工 10	長野県 長野工業 高等学校	1,2,3 年	機械科	知財講習会／外部講師	知的財産を活用した能動的なものづくり教育の導入と定着(発明プロセスの理解と実践)
		1,2,3 年	環境システム科	知財講習会／外部講師	
		3年	電気科	知財講習会／外部講師	
工 11	静岡県立 遠江総合 高等学校	2年	電子情報系列、 機械技術系列	工業管理技術	・工業管理技術の授業を利用して生徒に知的財産権制度に関する知識を説明し、理解を深める。 ・工業実習を利用して、生徒自ら創造的な実習ができる様に、自由なテーマの実習を盛り込む。 ・課題研究を利用して、本事業の活動テーマである「知的財産学習を取り入れた災害時における雨水利用の研究」を実施していく。
		3年	電子情報系列、 機械技術系列	工業実習	
		3年	電子情報系列	課題研究	
工 12	静岡県立 吉原工業 高等学校	1年	全学科	工業技術基礎	ものづくりを通じた知的財産権の理解と創造性の育成
		3年	電子機械科	課題研究	
		3年	電気科	課題研究	
		3年	電子科	課題研究	
		3年	システム化学科	課題研究	
		3年	数理工学科	課題研究	
		3年	機械科	課題研究	

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
工 13	石川県立 小松工業 高等学校	1年	機械科	工業技術基礎 / 実習	知的財産教育を活用した、ものづくり実践と 創造力の育成
		1年	電気科	工業技術基礎 / 実習	
		1年	建設科	工業技術基礎 / 実習	
		1年	材料科学科	工業技術基礎 / 実習	
		3年	機械科	課題研究 / 実習	
		3年	電気科	課題研究 / 実習	
工 14	石川県立 工業高等学校	2年	機械システム科	実習	知的財産制度の概要・意義・重要性につい ての理解を促進し、コンテストや大会への参 加を目的とした生徒の創意工夫する態度を 引き出す課題解決型創造性育成プログラム を開発する。
		3年	機械システム科	課題研究	
		部活 動	機械システム科	機械設計同好会	
工 15	岐阜県立 岐阜工業 高等学校	3年	設備システム	課題研究 / 一斉	「異分野との交流を通して技術(映像および レーザー加工)開発を図り、未踏分野に挑戦す る」
		3年	建設工学	課題研究 / 一斉	
		3年	デザイン工学	製図 / 一斉	
		3年	デザイン工学	情報技術基礎 / 一斉	
		1年	化学技術科	製図 / 一斉	
工 16	愛知県立 岡崎工業 高等学校	1年	全科	情報技術基礎/座学	ものづくりを通じた知的財産の理解
		3年	機械デザイン科	実習	
		3年	機械デザイン科	課題研究	
		3年	機械デザイン科	工業デザイン/座学(含演 習)	
		2,3年	電算機部	部活動	
工 17	滋賀県立 彦根工業 高等学校	3年	建設科	課題研究	建設技術を地域の活性化、地域の安心、地 域のデザインに活かす
		3年	電気科	課題研究	
		2年	建設科	建設実習	

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
工 18	兵庫県立 姫路工業 高等学校	3年	電子機械科	課題研究	・2つの学科と1つの部活動を中心に、全科に呼びかけ知的財産教育を活かした「ひとづくりをベース(土台)としたものづくり」の実践に取り組んでいる。知的財産教育は権利や創造を問うだけのものではなく、生徒の能力を引き出すための「ひとづくり」のツールと考える。知的財産学習を通して生徒の「アイデア創出」や「気づき」を更に深化させ、生徒自らが考え抜いて様々な創意工夫し、創造力・実践力・活用力の素養を身につけた産業人を育成し社会に送り出す。 ・いろいろな場面で生徒の「アイデア創出」や「気づき」を具現化することが出来た。知的財産教育の取り組みを1月及び2月の課題研究発表会で(生徒・保護者・企業の方の前で)発表する予定であり、それをもって今年度の知的財産教育を通した「ひとづくり」「ものづくり」を達成する。
		3年	デザイン科	課題研究	
		1,2,3年	電子機械科	部活動(同好会)	
		1年	全学科	工業技術基礎	
工 19	兵庫県立 洲本実業 高等学校	全校生	工業科、機械科、電気科、商業科、国際ビジネス科	特別活動	校内に知的財産を推進する体制をつくり、その体制のもと、生徒の知的財産権に対する関心度を高め、多くの企業や有識者からの講義などで意識を高めたい。当初はロゴを用いた作品を予定していたが、作品を限定させてしまうので制限をとり、ロゴマークも含め自由な発想で制作させ積極的な創造力や実践力を育成させる。
工 20	山口県立 田布施農工 高等学校	1年	機械制御科	総合的な学習の時間	知的財産について学習し、それを踏まえたうえでチームによる開発ができる能力を養う。
		2年	機械制御科	機械工作	
		3年	機械制御科	課題研究	
		全学年	メカトロ研究部	部活動	

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
工 21	山口県立 下関工科 高等学校	全学年	電気研究部、 化学研究部、 建築研究部、 自動車部	部活動／講義・実習・出 展・ 発表・討議・調査	工業高校としての体系的な技術者育成の工 業教育の一環として、ものづくりを通じた知的 財産教育に取り組み、一人でも多くの生徒に その成功体験をさせることを目的とする。ま た、知的創造サイクルの構築を目指すもので ある。
		3年	電気科、機械 科	課題研究／講義・実習	
		1年	全学科	総合的な学習の時間／ 講和	
工 22	徳島県立 つるぎ 高等学校	全学年	全学科	工業技術基礎、課題研 究、 情報処理／授業、部活動	「ものづくり」及びビジネス教育を通じた、実践 的な知的財産権の理解と創造性の育成
工 23	香川県立 志度 高等学校	1,2,3 年	電子機械科	工業技術基礎、実習、課 題研究	ものづくりの基本学習の徹底と応用技術習得 における改善・発明を育む活動
		1,2,3 年	電子機械科、 情報科学科	ネット研究部	
工 24	香川県立 観音寺総合 高等学校	1年	工業科	工業技術基礎／実習 (発想訓練)	本校は、教育目標の一つに「社会の発展に貢 献できる人間の育成」という項目を掲げ、教育 に取り組んでいる。従来から工業科で取り組 んできた「人や社会に役立つものづくり」を基 本に、近隣の特別支援学校や幼稚園などを 生徒たちが取材し、その要望に応じたものづ くりに取り組む。実践的なものづくりから生ま れる豊かな発想力や創造力を知的財産教育 と連携させ、知財マインドに通じた生徒を一人 でも多く育てることを目的とする。
		1年	工業科	夏休み課題／ 発明くふう展への出展	
		3年	進学クラス	課題研究／特別支援学 校 および幼稚園等での出前 授業	
		3年	工業科	課題研究／製作実習	
工 25	愛媛県立 吉田 高等学校	1年	機械建築・ 電気電子	「工業技術基礎」、 講演・課題提出	工業の科目や講演会、校内アイデアコンテス トの実施を通して、知的財産に関する知識の 定着、発想力・創造力の向上を図り、知的人 材の育成を行う。
		2年	機械建築・ 電気電子	講演・課題提出	
		3年	機械建築・ 電気電子	「課題研究」、講演・課題 提出	

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
工 26	福岡市立 博多工業 高等学校	1年	全学科 (6科)	工業技術基礎、LHR、宿泊 研修	知的財産に関する基礎知識の習得および知 的財産マインドの育成
		3年	建築科	課題研究	
工 27	日本 文理大学 附属高等学 校	1,2,3 年	情報技術	課題研究	コンテスト応募を通じた知財教育
工 28	都城東 高等学校	1年	自動車 工業科 普通科	パテントプロジェクト (課題研究)	ものづくりを通じた地域課題解決と特許(意 匠・商標含む)の取得
工 29	鹿児島県立 鹿児島工業 高等学校	1年	I 類・II 類	工業技術基礎(授業)	平成 25 年度から取り組み5年目となり、更に 知的財産教育が推進できるように、指導体制 や指導教員の育成を図る。工業技術基礎で の学習や知的財産講演会の実施によって、 生徒の知識習得や興味関心の向上を目指 す。また、課題研究や部活動において、生徒 自らの発想でものづくりを行い、パテントコン テストへの応募を目指す。
		3年	情報技術系	課題研究(授業)、 部活動(パソコン部)、 部活動(メカトロ部)、 部活動(機械部)	
工 30	鹿児島県立 加治木工業 高等学校	1年	建築科	工業技術基礎／ 一斉授業・公開授業	知的財産学習の推進と地域連携の実践
		1年	工業化学科	工業技術基礎／一斉授業	
		1年	土木科	工業技術基礎／一斉授業	
		1年	電気科	工業技術基礎／班別実習	
		1年	機械科	工業技術基礎／ 一斉授業・公開授業	
		1年	電子科	工業技術基礎／ 一斉授業・班別実習	
		3年	全学科	課題研究／班別学習	
		全学年	ものづくり部	部活動／ものづくり部	

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
工 31	鹿児島県立 隼人工業 高等学校	1年	インテリア科	工業技術基礎	知的創造物具現化のための創造力と 技術力の向上
		2年	インテリア科	製図 特別授業	
		2年	インテリア科	実習	
		3年	インテリア科	実習・課題研究	
		全学 年	インテリア科、 電子機械科、 情報技術科		
		1,2,3 年	インテリア科 電子機械科	部活動(ものづくり部)	
工 32	鹿児島県立 薩南工業 高等学校	1年	工業科	工業技術基礎／講義・ 実習	主体的に自ら考え行動していかなければならない体験的な学習を通して発想 力や創造力を育成すると共に、規範意 識や知的財産権の重要性についても理 解し、今後の産業界において必要な基 礎力を身に付けていくことが目的であ る。
		2年	機械科	実習／講義・実習	
		3年	機械科	課題研究／講義・実習	
		3年	情報技術科	課題研究／講義・実習	

商業高等学校

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
2 展商 01	群馬県立 前橋商業 高等学校	3年	ビジネス 総合科	「起業実践」 「課題研究」／授業	ビジネスプランの実践による 知的財産教育の活用

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
1 展 商 01	鹿児島県立 奄美 高等学校	1年	商業科	情報処理／授業	・商業科、情報処理科1年次で、知的財産に関する基礎的知識と諸発想法等を指導し、学習の動機付けを行う。 ・商業科、情報処理科2年次で知的財産のつくり方を指導し、自主的に実践するマインドを育む。 ・商業科、情報処理科3年次で創造した知財を活用して、社会をよりよくしていこうとするマインドを育む。 ・商業科、情報処理科、家政科、機械電気科の生徒に対して、プロフェッショナルや地域協働による高校生レストランの企画・運営・実施の体験学習プロセスで、知的財産の創造力・実践力・活用力を開発する。 ・工業技術研究部の生徒に対して、製品製作の指導を通じて知的財産のつくり方を体得し、創作物を活用して社会をよりよくしていこうとするマインドを育む。
		1年	情報処理科	情報処理／授業	
		2年	商業科	商品開発／授業	
		2年	情報処理科	電子商取引／授業	
		3年	商業科	総合実践、課題研究／授業	
		3年	情報処理科	総合実践、課題研究／授業	
		3年	家政科	調理／授業	
		3年	機械電気科	課題研究／授業	
		1,2,3年		商業クラブ部／部活動	
		1,2,3年		工業技術研究部／部活動	

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
商 01	茨城県立 那珂湊 高等学校	1年	商業に 関する学科	ビジネス基礎	ASEEDとの商品開発及び知財学習、講演 「みなとちゃん」を使ったグッズの試作 谷藤水産パッケージデザイン企画 産学連携アイスクリーム開発 自動販売機ラッピングや販売効果・検証、産業 教育フェア参加
		2年	起業ビジネス科	マーケティング	
		3年	起業ビジネス科	広告と販売促進	
		3年	会計ビジネス科	マーケティング／選択	
		3年	情報ビジネス科	マーケティング／選択	
		3年	情報ビジネス科	ビジネスデザイン	
商 02	神奈川県立 商工 高等学校	3年	総合ビジネス科 総合技術科	課題研究 / 必修 2単位(2時間/週)	生徒自らが計画・企画・立案し、商業系と工業 系が連携を図り、商品開発を行う
商 03	神奈川県立 平塚商業 高等学校	全学年	総合ビジネス科	課題研究	知的財産権を学ぶにあたっての校内組織を構 築し、今まで行ってきた活動に知的財産権を意 識させることにより実践的・発展的な活動を行 うことを目的とする。
商 04	甲府市立 甲府商業 高等学校	3年	商業科	商品開発／授業	①授業「商品開発」・「課題研究(知的財産権学 習)」選択者 (1)知的財産権について知識を習得させる。 (2)知財を保護・尊重する意識の醸成や創造に 対する意欲を高めさせる。 (3)知財を創造する力を身につけさせる。 (4)課題解決能力を身につけさせる。
		3年	商業科	課題研究(知的財産権学 習)／授業	②部活動(マーケティング部) (1)知財を保護・尊重する意識の醸成や創造に 対する意欲を高めさせる。 (2)商標権・意匠権について理解し、新商品の 企画をととして創造力を高めさせる。 (3)学習した内容の発表をととして、コミュニケ ーション力やプレゼンテーション能力の向上、 知財教育の発信をさせる。
		全学年	商業科、 情報処理科	部活動(マーケティング 部)	

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
商 05	長野県丸子修学館高等学校	3年	総合学科	調理分野	全職員・全生徒への周知と 各分野連携による取組
		3年	総合学科	地歴公民分野	
		3年	総合学科	商業分野	
商 06	静岡県立沼津商業高等学校	3年	総合ビジネス科 経営コース	広告と販売促進/授業	生徒が昨年度完成した沼商キャラクターを知 的財産として、その実践力・活用力を学習しな がら、キャラクターを育てる。
		3年	情報ビジネス科 マルチメディア コース	情報コンテンツ実習/授 業	
商 07	知徳 高等学校	2年	情報ビジネス科	情報処理、ビジネス情報	アクティブラーニングを通じて知的財産に関し て基本的な学習をし、生徒に深く理解させると ともに、将来の商品開発へとつなげる
		3年	情報ビジネス科	経済活動と法、課題研究	
商 08	石川県立 大聖寺実業 高等学校	1年	情報ビジネス科	特別活動	地域の企業や商工会議所と連携して地域情 報発信や活性化に向けた取り組みを展開し、 創造的で実践的な能力の育成を目指す。知的 財産に関する理解を深め、商品開発を通して 自身の将来について自己啓発を促すきっかけ とする。
		2年	情報ビジネス科	商品開発	
		3年	情報ビジネス科	課題研究グループ	
商 09	三重県立 津商業 高等学校	3年	ビジネス科・ 情報システム科	課題研究/授業	高等学校学習指導要領に沿った産業財産権 の学習
		1,2,3年	ビジネス科・ 情報システム科	コンピュータ部/部活動	
		1,2,3年	ビジネス科・ 情報システム科	校内研究発表会	
商 10	兵庫県立 松陽 高等学校	3年	商業科	課題研究	商品開発と起業家育成に向けた知的財産活 用 ～創造力を育み、積極性を高め、地域に必 要な人材育成～
		3年	商業科	経済活動と法	
		2年	商業科	商品開発	

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
商 11	兵庫県立 長田商業 高等学校	1 年	商業	地域産業と私・ビジネス基礎	地域経済の発展に寄与する人材の育成を目指し、企業等外部組織との連携を通じた商品開発において生徒に実践的・体験的な活動能力の育成を図るとともに、知的財産学習の定着を図る。また、指導者側の情報の共有および指導力の向上を図ることで、学校全体として知的財産教育に取り組む環境を整備したい。
		2年	商業	フードビジネス・広告と販売促進	
		3年	商業	店舗経営・課題研究	
		4年	商業	総合実践	
商 12	兵庫県立 加古川南 高等学校	2年	総合学科	商品開発	地域と連携したアントレプレナー教育の実践と知的財産権の理解
商 13	瓊浦 高等学校	1 年	情報ビジネス科	ビジネス基礎／通常授業	商品企画等の創造的・実践的な活動を通して知的財産に関する基礎的な理解と知財マインド(創造の意欲や創作を大切にするマインド)を醸成する。
		2年	情報ビジネス科	ビジネス実務／通常授業	
		3年	情報ビジネス科	商品開発／通常授業	
		3年	情報ビジネス科	総合実践／通常授業	
商 14	熊本県立 球磨中央 高等学校	1年	全学科、 地域未来探究 科、商業科、 情報処理科	総合的な学習の時間／一斉講義、外部講師招聘授業、グループワーク、企業訪問、プレゼンテーション等	知的財産制度の理解を踏まえた地域資源活用を目指す総合的な学習の時間の取り組み
商 15	鹿児島県立 屋久島 高等学校	1,2,3 年	情報ビジネス科	課題研究／座学, 実習 商品開発／座学, 実習 広告と販売促進／座学, 実習 マーケティング／座学 その他商業に関する専門科目全般	地域産業の中心である観光業活性化における取り組みを通して、地域と共に知的財産権を学習する。屋久島全体のブランド化を目指し、付加価値の高い観光地として確立できるような活動を目指す。その過程で創造性の育成、プレゼンテーション能力を身に付けさせ、将来産業界で活躍できる人材を育てる。地域参加型報告会を実施し、積極的な情報交換を行うようにする。

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
商 16	出水市立 出水商業 高等学校	1年	商業科	「マーケティング」/ 知的財産の基礎	① 知的財産権に関する学習と発想法・創作 法の修得(1学年「マーケティング」、2学年「商 品開発」、3学年「広告と販売促進」、3学年 「課題研究(調査研究・作品制作)」, 調査研究 同好会) ② 知的財産教育の理解の浸透と拡大(2学 年「商品開発」、3学年「広告と販売促進」、3 学年「課題研究(調査研究・作品制作)」, 調査 研究同好会) ③ 知的財産に関する知識の定着(全学年生 徒)
		1年	全クラス	「ビジネス基礎」/ 知的財産の理解	
		2年	商業科	「商品開発」	
		3年	商業科	「広告と販売促進」	
		3年	商業・ 情報処理科	「課題研究(調査研究)」	
		3年	商業・ 情報処理科	「課題研究(作品制作)」	
		全学年	商業科 情報処理科	調査研究同好会/ 調査研究・地域貢献活動・ 商品開発等 全校生徒/知的財産講演 会等	
商 17	鹿児島県立 種子島中央 高等学校	3年	情報処理科	マーケティング/クラス	知的財産について理解を深め、地域協働によ る地元の活性化や地域社会のリーダーとなる 人材を育てる
		3年	情報処理科	電子商取引/選択	
		3年	情報処理科	課題研究/クラス	
		2年	普通科	ビジネス経済応用/選択	
		1年	情報処理科	情報処理/クラス	
商 18	鹿児島県 鹿屋市立 鹿屋女子 高等学校	全学年	情報ビジネス 科	課題研究/スーパービジネスクラ ブ(部活動)	地域と連携した実際の・体験的学習活動を通 じた、知的財産権についての理解の定着
商 19	鹿児島県立 串良商業 高等学校	全学年	全学科	朝学習	知的財産を意識したなかなかあきないプロジ ェクトが地域にもたらす経済効果を考える
		全学年	全学科	講演会	
		全学年	全学科	デザインパテントコンテスト	
		3年	全学科	課題研究	
		3年	全学科	商品開発	
		3年	全学科	広告と販売促進	
		2年	総合ビジネス 科	マーケティング	

農業高等学校

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
3 展農 01	岐阜県立 岐阜農林 高等学校	2,3年	流通科学科	課題研究・総合実習	① 学科間連携プロジェクトの推進 ② 4学科特色あるプロジェクトの展開 ③ 外部連携による知財及び知財権学習 の推進 ④ 高大連携の推進
		2,3年	園芸科学科	課題研究	
		1,2,3年	動物科学科	課題研究・総合実習	
		2年	森林科学科	課題研究	
		2,3年	環境科学科	課題研究・総合実習	
		1,2,3年	食品科学科	課題研究・課題研究・食品製造	
		2年	生物工学科	課題研究	
3 展農 02	熊本県立 南陵 高等学校	1 年	全学科	「球磨農林学」・「球磨地域学」 ／座学、班別演習	(1)「球磨農林学」における知的財産学習指導 マニュアルの定着 (2)校内知的財産学習のボトムアップ (3)専門教科と知的財産学習との更なる結び付け (4)知的財産学習をととした生徒リーダー育成・地域農家、企業と連携した実践的な知的財産学習の展開
		2,3年	生産科学科	「課題研究」／班別学習 「作物・畜産」／座学、実習	
		2,3年	園芸科学科	「総合実習」／座学、実習 「野菜」「草花」／座学、実習	
		2,3年	環境工学科	「総合実習」／座学、実習	
		2,3年	食品科学科	「水循環」／座学、実習 「課題研究」／班別学習	
		2,3年	生活経営科	「食品製造」／座学、実習 「生活と福祉」／座学、実習	
		2,3年	普通科総合コース	「リビングデザイン」 「クリエイト」／実習	
農 01	長野県 須坂創成 高等学校	全学年	全学科	課外活動	学校内に知的財産学習に係る組織を構築し、より効果的な学習活動を目指す。 また、総合技術高校としての強みを活かした学科連携のステージとして、知財学習を活用する。そして、これらで培った知財学習を基盤とした学科間の連携を推進し、『創成ブランド』の確立を目指す。
		1年	農業科(くくり) 創造工学科	産業基礎 Ⅰ 学年一斉・HR別	
		2年	農業科・ 創造工学科目 選択生	植物工場 Ⅰ 選択	
		3年	園芸農学科、 食品科学科、 環境造園科、 創造工学科	課題研究 Ⅰ コース別	

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
農 02	岐阜県立 郡上 高等学校	3年	食品流通科	課題研究・食品流通	新・「郡上高校ヨーグルト」の開発することを目指して
		2年	食品流通科	課題研究・食品化学	
		1年	食品流通科	総合実習	
農 03	岐阜県立 飛騨高山 高等学校	3年	園芸科学科	「食品流通」 「課題研究」／シコクビエを 使った新商品開発	知的財産学習の定着と地域資源を活用した 商品開発
		2,3年	園芸科学科	「食品流通」 「課題研究」／シコクビエを 使った新商品開発	
		3年	生物生産科	「食品流通」 「課題研究」／ヤマブドウ を使った新商品開発	
		2,3年	生物生産科	「食品流通」 「課題研究」／ヤマブドウ を使った新商品開発	
農 04	奈良県立 磯城野 高等学校	1,2,3年	バイオ技術 科	食品製造	知的財産を踏まえつつ、地域と連携し商品開発を通じて、創造力を養う。
農 05	大分県立 大分東 高等学校	3年	園芸ビジネス 科	野菜・食品製造・食品 流通・ 課題研究・総合実習／ 授業	知的財産教育の校内普及
		2年	園芸ビジネス 科	野菜・食品製造・総合 実習／授業	
		2年	園芸デザイン 科	花と緑のデザイン・総合 実習／授業	
		1年	園芸ビジネス 科園芸デ ザイン科	農業情報処理・総合実 習／授業	
		1,3年	農業部	農業クラブ	
農 06	鹿児島県立 徳之島 高等学校	2,3年	生物生産系 列	農業と環境・総合実習・ 課題研究／実習・講義	農・商の連携による商品開発の手法を学ぶ
		2,3年	情報 ビジネス系列	総合実践・ビジネス基礎 ／講義	

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
農 07	鹿児島県立 鶴翔 高等学校	1年	総合・農科・ 食技	総合的な学習／講義	地域と共に鶴翔ブランド「3年 A 組の」の拡大利用と 知的財産教育の充実を図る
		1年	総合・農科・ 食技	総合的な学習／セミナー	
		1年	農科・食技	「農業と環境」／授業	
		2,3年	農業科学科	「生物活用」／授業	
		3年	農科・食技	「課題研究」「総合実習」 ／ 授業・実習	
		1,2,3 年	農科・食技	「食農研究部」部活動	

水産高等学校

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
3 展 水 01	愛媛県立 宇和島 水産 高等学校	1年	水産食品科	水産海洋基礎	【取り組みテーマ】 新製品の開発を通して知財を学ぶ～校内外の連携 を行い実践力の高い知財学習を目指して～ 【最終目標(今期の目標)】 校内の知財学習体制の強化(知財教育実践事例集 の作成) 校内の学科間連携の強化(3科で協力した販売・発 表活動) 他校種との連携による幅の広い考え方ができる人 間の育成(幅の広い考え方ができる人間育成) 知財マインドを備えた生徒の育成と地域社会での活 躍(県フェアでの調査を行い効果の評価をする) 産学官言連携を行い高校生が参加した連携に対す る効果の評価(今後活動できるように事例集の 作成)
		2年	水産食品科	食品製造	
		3年	選択	食品製造	
		3年	海洋技術科	課題研究	
		3年	水産増殖科	課題研究	
		3年	水産食品科	課題研究	
		特活	水産増殖 研究部	部活動	
		特活	水産食品 研究部	部活動	
		全学年	水産クラブ	課外活動	

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
-----	-----	----	----	-------	---------------

1 展 水 01	秋田県立 男鹿海洋 高等学校	3年	海洋・食品科学	課題研究・総合実習/製 作・研究	①知財学習推進委員会において、指導体制を確 立する。 ②地域企業と連携した新商品の開発、地域の活 性化に向けた高校生のアイデアを提案するととも に、コンテスト等へ応募する。 ③他校(異種間)と商品開発で連携し、他校の教 員へ知財学習の情報を提供する。
		2年	食品科学・海洋	総合実習/講義・演習	
		2年	食品科学	水産流通・情報技術/講 義・演習	
		1年	普通	社会と情報/講義	
		2,3年	普通	ビジネス基礎/講義	
		2年	普通	課題研究(家庭)/ 講義・演習	
		1年	海洋・食品科学	水産海洋基礎/演習・講義	
		1,2,3年	水産クラブ・ 家庭クラブ	部活動/製作・研究	
		全学年	全学科	課題研究・総合実習等/ 成果発表会	
水 01	青森県立 八戸水産 高等学校	1年	水産食品科	食品製造・マリンタイム/座学	1学年:発想学習・アイデア創出学習の手法を 理解する
		2年	水産食品科	情報技術/実習	2学年:知的財産権についての基礎的な知識を 理解する
		3年	水産食品科	総合実習・課題研究/ 実習	3学年:知的財産権を活用した実践学習へと発展
水 02	福井県立 若狭 高等学校	全学年	海洋科学科	水産海洋基礎、課題研究 /座学、実習	知財人材の育成 目標・・知財権の活用・創造・ 実施・基礎知識・調査
水 03	京都府立 海洋 高等学校	2,3年	海洋工学科 航海船舶コース	「総合実習」 「課題研究」	目的:これまで取り扱うことがなかった「知的財産に 関する学習」を専門教科内の内容として導入し、 知的財産権の検討が研究や開発活動等に伴う 一連の流れとして、必須事項であるという認識 を養う。 目標:知的財産に関する学習活動を、本校教育 (研究・開発)の中で計画的に実践する。

No.	学校名	学	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
-----	-----	---	----	-------	---------------

		年			
水 04	大分県立 海洋科学 高等学校	3年	海洋	課題研究／実習 総合実習／実習 水産流通／座学	商品開発を通して、地域と連携しながら、「創造力」「実践力」「活用力」を身につけ、自立型人財の育成を図る。
		2年	海洋	課題研究／実習 総合実習／実習 水産流通／座学	
		1年	海洋	海洋情報技術／実習 水産海洋基礎／実習	
水 05	福岡県立 水産 高等学校	2,3 年	海洋科、 食品流通科、 アクアライフ科	課題研究・総合実習 ／実習	アクアライフ科では、豊かな海づくり活動(プロジェクトT)を通じて、環境活動を啓発するためのアイテムとして「うき守り」の製作を行い、商標権・意匠権などについて学習する。また、食品流通科では新商品開発や、商標権に関する知的財産学習を課題研究や総合実習を中心に行う。しかし、知的財産学習は学校全体での取り組みとしてはまだ広がりをみせていないため、平成 29 年度に福岡で開催される「全国豊かな海づくり大会」をきっかけにして、全校規模での知的財産学習を行うことを目的とする。
水 06	鹿児島県立 鹿児島水産 高等学校	3年	海洋科栽培 工学コース	総合実習・課題研究・ 里海	ア 先進的な取組をしている他校の経験(特に生徒の創造性育成の方法等)を訪問・聴取・調査するとともに、適宜情報交換をする。 イ 従来、コース内で実施してきたアイデア募集に関しては募集枠を全校へと拡大し、他学科生徒の参加やアドバイス等、科・コースから全体での取組への基礎としていく。 ウ 知的財産権に関する教育を推進していくことで、生徒の興味・関心を引き出し、発想力を高める。 エ チョウザメについては、本事業を通して得たデータと経験を生かし飼育を継続し、キャビアの製造及び種苗生産技術の確立を目指したい。併せて知的財産権についての理解と活用についての学習を深めていく。 オ 27 年度からの継続として、透明標本を安価に仕上げる方法について研究したい。 カ 地域連携について、県内関連団体、県下の各漁協、大学と連携し藻場再生やサンゴ保全に取り組んでいく。 1 年生についてはタワー作りやプレスト、JK法等を使ってマインドマップ作りなどで導入をはかる。
		2年	海洋科栽培 工学コース	総合実習	
		1年	全学科 (海洋科・ 食品工学科・ 情報通信科)	水産海洋基礎	

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
-----	-----	----	----	-------	---------------

3 展 専 01	香川高等 専門学校	本科 1 年	全学科 (電子システム工学科・ 情報工学科・通信 ネットワーク工学科)	創造実験・実習/実験	<u>目標</u>: 高専一貫教育の特徴を生かし、知財を創出する技術者の育成を目標とする。 <u>目的</u>: 特許教育を低学年から段階的かつ、継続的に指導する体制を構築すること、及び実践的知財教育支援事業として正課と課外を教務的に融合させることで、学生自身で発明できるようにすることである。加えて、女性技術者キャリア教育の一環としての知財管理検定3級レベルの法令指導も行っていく。
		本科 2 年	電子システム 工学科	基礎工学実験・実習/実験	
		本科 3 年	電子システム 工学科	基礎工学実験/実験	
		本科 4 年	全学科	세미나(先行技術調査、 ラボノートの配布と説明会)	
		本科 4 年, 本科 5 年	全学科	特別講義Ⅰ 特別講義「知的財産の基礎 から応用」/講義	
		本科 4 年, 本科 5 年	全学科	特別講義Ⅱ 「知的財産の応用等に関する 講義」/講義	
		本科 5 年	全学科	卒業研究/実験 (先行技術調査の実施状況 の調査、ラボノートの再配布)	
		専攻科 1 年, 専攻科 2 年	電子情報通信 工学専攻	特別研究/実験 (先行技術調査の実施状況 の調査、ラボノートの再配布)	
		専攻科 1 年	電子情報通信 工学専攻	知的財産権/講義	
2 展 専 01	北九州 工業高等 専門学校	本科 1 年から 専攻科 2 年	全学科	課外活動/ 愛好会、ロボコン(学生有志)	・工作授業を通じた創造教育の強化と校内パテントコンテストの実施 ・J-Plat Pat を利用した特許情報検索方法の習得とコンテストへの活用 ・近隣高専との「合同パテントコンテスト」または「合同アイデア工作コンテスト」の準備・体制づくり
		5 年	機械工学科	メカトロニクス工学	
		希望者	全学科	校内パテントコンテスト	
		4 年	機械工学科	機械工学実験Ⅰ	
		希望者	全学科	デザコン参加	
		3 年	全学科	現代社会	
		専 2 年 5 年	全学科	知財セミナー	
		希望者	全学科	セミナー	

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
-----	-----	----	----	-------	---------------

2 展 専 02	都城 工業高等 専門学校	1 年	全学科	総合社会 I	グローバルスタンダード化された知財教育カリキュラムの立案と実施
		1 年	電気情報 工学科	特別授業	
		1,2,3 年	全学科	自由活動	
		4 年	全学科	特別活動(研究発表)	
		5 年	全学科	産業財産権	
1 展 専 01	旭川 工業高等 専門学校	1 年	全学科	情報基礎・現代社会／座学	・パテントデバйд解消を目指した地域連携推進のための実践的知財学習 ・知財権の基礎的な知識を習得させ(1, 2 年生)、知財権の創造や活用ができる知財人財(全学年)の育成を目指す。
		2 年	全学科	地理／座学	
		5 年	全学科	知的財産権論／座学・演習	
		クラブ 活動	有志学生		
専 01	サレジオ 工業高等 専門学校	1 年、5 年 1～3 年	機械電子 工学科 学科混合	創造演習／講義・J 演習 課外活動	知財創出思考を学校の文化として定着することを目的とした。 目標 1: 課外活動団体(1～5 年生 15 人)の継続的活動の支援、達成度 70%、本科 1 年生 40 名、5 年 33 名への知財知識の教授 95%

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
-----	-----	----	----	-------	---------------

専 02	沼津工業 高等専門 学校	1年	全5学科	「知財セミナー」日本弁理士会	『地域企業・自治体と連携した知的財産学習の実践』として、地域特性や地域資源への理解を深め、地域企業・自治体の課題を発見し、自らのスキルとアイデアを集結し課題解決を目指す中で、知的財産学習（創造・保護・活用）を実践的に取り組むシステムの構築が望まれる。そこで、2年生での「ミニ研究」、4年生での「社会と工学」、『知財のTKY(寺子屋)』のプロジェクトなどの活動を行う。また、各学科内での知財教育の実態の調査を推進する。
		1年	全5学科	情報処理基礎/講義	
		2年	全5学科	「ミニ研究」	
		2年	制御情報 工学科	情報学理論/講義	
		2年	機械工学科	電気工学/講義	
		3年	全5学科	「知財セミナー」日本弁理士会	
		3年	電気電子 工学科	電気電子計測/講義	知的財産マインドの育成として、低学年での知財学習への関心を高める。特に、知財マインド（創造）の育成として、1年生の知財基礎セミナー、2年生での「ミニ研究」、3年生の知財応用セミナー、全学年を対象とした「知財のTKY（寺子屋）」でのアクティブラーニングを通じた創造活動を行う。
		4年	全5学科	「社会と工学」	
		4年	制御情報 工学科	創造設計/講義	
		4年	制御情報 工学科	設計工学/講義	起業マインドの育成として、高学年での地域特性の理解、課題解決能力を高める。特に、起業マインド（保護・活用）の育成として、4年生での「社会と工学」、全学年を対象とした「知財のTKY（寺子屋）」、専攻科生での「知財学習」でのアクティブラーニングを通じた保護・活用の実践的取組を行う。特に、『知財のTKY(寺子屋)』を通し、裾野市・沼津市との「電動モビリティ」、沼津市との「深海プロジェクト」、三島市・伊豆市・富士市・清水町との「花」などの地域特性を考慮し、地域の課題に学生のアイデアで挑戦し、更に産業財産権の申請などに繋げる。
		5年	全5学科	卒業研究	
		5年	電気電子 工学科	電力工学/講義	
		専攻科 1年	全3コース	「知財セミナー」	
		専攻科 2年	全3コース	専攻科研究	
		全学年	全5学科	特別同好会「知財TKY（寺子屋）」	

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
専 03	奈良 工業高等 専門学校	1,2,3 年	電子制御 工学科	基礎工学実験／実験 電気工学実験／実験 電子制御工学実験Ⅰ／ 実験	本校の電子制御工学科で第1～第4学年 において行っているロボット教材を用いた 課題解決型学習(PBL)教育へ知的財産学 習を導入し、PBL教育と本学習とを有機的 に連携させた知財教育を目的とし、学生の 知的財産に対する興味を喚起し、知的財 産権に対する知識、重要性の効果的な学 習により、学生への概念の定着を目標とす る。
専 04	和歌山 工業高等 専門学校	1,3年 ----- 5年 ----- 1,2,3 年	知能機械 工学科・電気 情報工学科・ 生物応用 化学科・環境 都市工学科	知的財産権の授業(HR) ----- ----- 総合美術同好会 部活動	ものづくりの発想を早い段階で育て、気づ かせる教育へと展開するために、平成28 年度からは、総合美術同好会の活動に加 えて、低学年(1年生から3年生)への指導 を知的財産教育活動の中核として位置づ けている。